



まずは状況確認!



安全が確認できたら、避難所に行かない選択も。

家屋倒壊のおそれがある

火災が迫っている

行く。

学校などの避難所や安全な知人宅等へ避難

避難所等への避難に備えて

- ▶ 非常用持ち出し品を準備
- ▶ 最寄りの避難所等を市防災マップ等で確認



Q ペットも一緒に避難するには?

A 飼い主の居住スペースとペットのスペースは別の場所になります。ペットを入れたクレートは避難所の所定の場所に設置しましょう。 ※ペットの管理(えさや排せつ物の処理等)は飼い主の責任で行ってください



- いつか 一時避難場所: ようすを見るため、いつか避難する場所
- 避難所: 災害により家屋が被害を受け、居住ができないと判断した場合に避難して生活する場所
- 広域避難場所: 火災が広範囲に及んだとき、熱や煙、有毒ガスなどから身を守る、延焼の危険のない場所

車を使うと渋滞を引き起こし、消防・救急活動などに支障をきたすため、原則「徒歩」で避難しましょう

災害時の断水に備えましょう

大規模な地震が発生した際、市での断水率は最大で21.1%になると想定されており、日ごろの備えが大切です。

※引用「首都直下地震等による東京の被害想定」報告書(令和4年5月 東京都)

お近くの災害時給水ステーション(給水拠点)

- 断水時に水をお配りします。水を入れる清潔な容器(ポリタンクなど)をご持参ください。
- ・梶野配水所 梶野町5-10-33
 - ・上水南給水所 小平市上水南町3-12-36
 - ・都立武蔵野公園応急給水槽 府中市多磨町3-2

自主防災組織を作ろう

自らのまちは、自ら守る

地域で協力し合い災害からまちを守るため、自主的に結成する組織です。

市では、自主防災組織に対して補助金を交付し、その活動を支援しています。

行かない。

家屋に被害・倒壊のおそれ・火災の危険がなく安全を確保できる

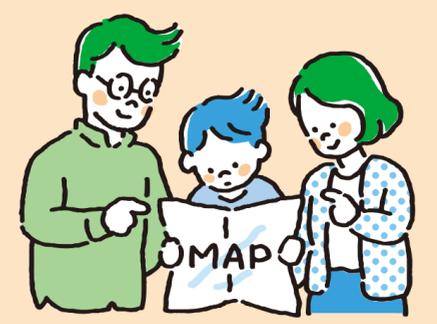
食料などの備えが十分

(水害の場合) 浸水深より居室が高い

自宅での生活を続ける在宅避難

在宅避難に備えて

- ▶ 家具などの転倒防止対策
- ▶ 食料品、水、携帯用トイレなど日用品の備蓄
- ▶ 自宅周辺のリスクを市防災マップ等で確認

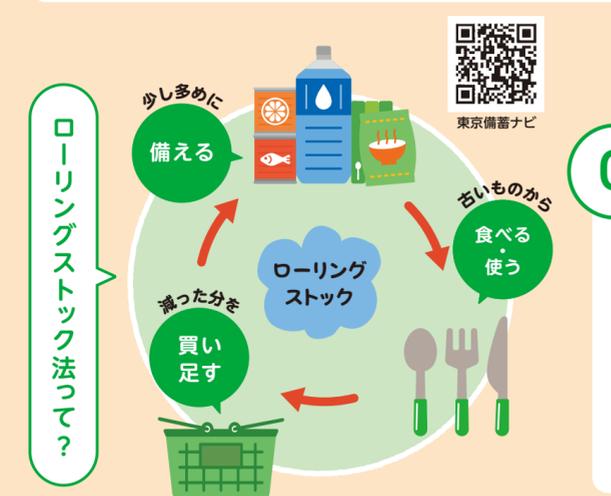


Q 備蓄ってどうしたらいいの?

A 日ごろから自宅で利用しているものを少し多めに備えることで、発災時にも自宅で当面生活することができます。その際、「ローリングストック法」(下図)がおすすめです。東京備蓄ナビで、ご家族に合った備蓄を調べてみましょう。

Q 非常食はどのくらい用意すればいいの?

A 家族の人数×3日分の食料(1日3食分×3日分=9食分)がベースですが、さらに1日分(3食分)プラスする**4日分(12食分)の用意が推奨**されています。例)家族3人×12食分=36食分



Q 家の中を安全にするポイントは何?

A

- 安全な部屋作り: 寝室にはできるだけ家具を置かず、置く場合はしっかり固定
- 避難路の確保: 玄関等出入口につながる通路に倒れやすい家具や落下しやすいものを置かない
- 収納を工夫: 高い場所に物を置かない。軽い物を上に、重い物は下に収納

防災訓練に参加しよう

町会・自治会等が実施する地域の防災訓練に参加し、日ごろから顔の見える関係作りを進めましょう。市が主催の防災フェスタ(総合防災訓練)は、9月1日(日)午前中に市立南中学校で実施します。

重要な役割を担う消防団

本業をもつかわら、奉仕の精神により市民の生命や財産などを守るため、昼夜を問わず活動しています。訓練などの消防団の活動へのご理解・ご協力をお願いします。なお、入団方法等詳しくは地域安全課防災消防係へお問い合わせください。



資格等要件

市内在住・在勤・在学の入団日時時点で18歳以上の方

